

2024年新年特別企画

知事・建設業協会長新春対談



群馬県建設業協会
青柳 剛 会長



群馬県
山本 一太 知事

昨年7月の知事選挙において2期目の当選を果たし「攻めの4年間」にしていきたいと語る山本一太知事。県民幸福度の向上という山本県政の原点を大切に、「地方から中央を変え、日本を元気にする」という壮大な目標に向かって全力を注ぐ。群馬県建設業協会の青柳剛会長は、知事をはじめ県土整備部の支援、連携を引き続きお願いするとともに、「レジリエンスの拠点」の実現に向けた社会資本の整備促進に関して「攻めの4年間」へ期待を表した。一方で、次期県土整備プランの策定へ向けて本格的に動き出す2024年。建設産業の役割やこれからなどについて山本知事と青柳剛群馬県建設業協会会長に意見を交わしてもらった。

「地方から中央を変え、日本を元気に」

新たな年を迎えるにあたり、群馬県をどのように牽引していくか考えていますか。

山本知事 昨年7月の群馬県知事選挙におきましては、皆さまの支援をいただき、2期目の当選の栄を辱めることができました。誠に身に余る光栄であり、感謝をいたします。改めて知事として2期目の4年間を振り返ると、就任直後から台風災害や群馬県庁舎の移転、そして新型コロナウイルスへの対応など、文字通り「危機管理」の連続でした。このように、守りを強いられた4年間から2期目は「攻めの4年間」にしていきたいと思います。

県民幸福度の向上という山本県政の原点大切に、群馬県が掲げる3つの基本構想「リゾートの聖地」「リッチな生活の発信地」「レジリエンスの拠点」の実現に向けた取り組みを精進し、首都圏にありながら、豊富な水と森林資源、美しい自然環境、自然災害が少ない群馬県の特長や強みを最大限に活かす「地方から中央を変え、日本を元気にする」という壮大な目標に向かって、全力を注ぎたいと思っています。

建設業界として2期目に入れた山本県政へ期待するところ、どのようなところでしょうか。



建設業界として2期目に入れた山本県政へ期待するところ、どのようなところでしょうか。

青柳会長 昨年の夏に、山本知事は、建設業協会に支部全を訪問し、各地域の建設業における課題や未来について意見交換を行っていただきました。公務忙しいなか、大変ありがたかったです。

山本県政の2期目が始まる。昨年の夏に、山本知事は、建設業協会に支部全を訪問し、各地域の建設業における課題や未来について意見交換を行っていただきました。公務忙しいなか、大変ありがたかったです。

山本知事 気候変動の影響により、自然災害・激甚化する気象災害の新たな脅威に、しっかりと対応するため、水害対策をはじめとした防災・減災対策を重点的に推進してまいります。

研究の推進は、県内のICT工事を牽引する技術者になっていく。また、建設業は工事の施工だけでなく、災害や自然災害発生した場合に緊急対応を要する役割も求められています。また、激甚化・頻発化する気象災害や突発的に発生する家畜感染症における建設業が行う緊急対応は、県民の生命・財産を守る危機管理として必要不可欠なものと考えています。建設業協会は、災害対応組織力を強化するため、流通在庫備蓄や「ハズン」風速や「ハズン」の運用や排水ポンプの運転訓練などに継続的に取り組むとともに、道路や河川を管理する土木事務所と建設業協会が連携して対応できるように、平時からの連携強化をお願いいたします。

次期県土整備プランの策定を進めるにあたって、今後の社会資本整備を進めていく上で、重視していることがあれば教えてください。

山本知事 気候変動の影響等により、気象災害が頻発・激甚化する中で、群馬県の近未来構想の一つである「レジリエンスの拠点」を実現するため、引き続き、「災害レジリエンス」の表現に「防災・減災対策を重点的に推進していき」と考えています。

青柳会長 次期県土整備プランを策定するうえで、重要となる項目として、防災・減災対策・インフラ老朽化対策が示されましたが、日本の社会資本整備が直面する課題そのものであり、群馬県においても同様で理解しています。

山本知事 知事就任後、1期目の4年間における、台風災害や群馬県庁舎の移転、そして新型コロナウイルスの発生など、直面してきた様々な危機に対し、建設業界の皆さまには、常に迅速かつ適切な対応をお願いしてきました。改めて心よりの感謝申し上げます。

山本知事 昨年の夏に、山本知事は、建設業協会に支部全を訪問し、各地域の建設業における課題や未来について意見交換を行っていただきました。公務忙しいなか、大変ありがたかったです。

山本知事 気候変動の影響等により、気象災害が頻発・激甚化する中で、群馬県の近未来構想の一つである「レジリエンスの拠点」を実現するため、引き続き、「災害レジリエンス」の表現に「防災・減災対策を重点的に推進していき」と考えています。

青柳会長 次期県土整備プランを策定するうえで、重要となる項目として、防災・減災対策・インフラ老朽化対策が示されましたが、日本の社会資本整備が直面する課題そのものであり、群馬県においても同様で理解しています。

山本知事 知事就任後、1期目の4年間における、台風災害や群馬県庁舎の移転、そして新型コロナウイルスの発生など、直面してきた様々な危機に対し、建設業界の皆さまには、常に迅速かつ適切な対応をお願いしてきました。改めて心よりの感謝申し上げます。

山本知事 知事就任後、1期目の4年間における、台風災害や群馬県庁舎の移転、そして新型コロナウイルスの発生など、直面してきた様々な危機に対し、建設業界の皆さまには、常に迅速かつ適切な対応をお願いしてきました。改めて心よりの感謝申し上げます。

山本知事 昨年の夏に、山本知事は、建設業協会に支部全を訪問し、各地域の建設業における課題や未来について意見交換を行っていただきました。公務忙しいなか、大変ありがたかったです。

山本知事 気候変動の影響等により、気象災害が頻発・激甚化する中で、群馬県の近未来構想の一つである「レジリエンスの拠点」を実現するため、引き続き、「災害レジリエンス」の表現に「防災・減災対策を重点的に推進していき」と考えています。

青柳会長 次期県土整備プランを策定するうえで、重要となる項目として、防災・減災対策・インフラ老朽化対策が示されましたが、日本の社会資本整備が直面する課題そのものであり、群馬県においても同様で理解しています。

山本知事 知事就任後、1期目の4年間における、台風災害や群馬県庁舎の移転、そして新型コロナウイルスの発生など、直面してきた様々な危機に対し、建設業界の皆さまには、常に迅速かつ適切な対応をお願いしてきました。改めて心よりの感謝申し上げます。

山本知事 知事就任後、1期目の4年間における、台風災害や群馬県庁舎の移転、そして新型コロナウイルスの発生など、直面してきた様々な危機に対し、建設業界の皆さまには、常に迅速かつ適切な対応をお願いしてきました。改めて心よりの感謝申し上げます。





群馬県
建設業協会 会長
青柳 剛氏

持続可能な 建設業の実現へ

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、社会経済活動が正常化

しているなかで新年を迎えることができました。多くの方々が、コロナ前と変わらない正月を過ごしたことを思います。

一方、現在の社会情勢は、コロナ前とは違って労働力不足が一気に表面化し、物価上昇が進むなか、コロナ融資の返済も重なり倒産する企業が増えている状況です。加えてウクライナや中東情勢もあり、日本経済の

不透明感はさらに増えています。建設業界についても

資材や燃料の高騰、賃上げなど厳しい状況が続いています。

昨年の災害出動に関しては、8月の台風7号により西毛地域が大雨となり、大きな被害は発生しなかったものの、局所的な流出土砂や路肩崩壊への対策を行いました。また豚熱や鳥インフルエンザは、昨年1月以降発生していない状況ですが、10月に群馬県農政部と

家畜防疫に関する研修会を行い、防疫作業への対応を共有しました。

激甚化、頻発化する自然災害に対しては、地域の守

り手である建設業が災害対応組織力を強化することも

に、防災・減災対策事業を着実に進めることが重要です。国が進める国土強靱化

については、これまで「3カ年緊急対策」、「5カ年加速化対策」を閣議決定し実施してきましたが、昨年6

月に国土強靱化基本法が改正され、この法律に基づき策定する「国土強靱化実施中期計画」に内容や事業規模を位置付けて進めることになりました。これにより

国土強靱化の予算を補正予算でなく当初予算で確保されることを期待しています。

今年度の行動指針は、「新3K@かっこいい」として「給与」、「休暇」、「希望」に取り組むことは、建設業の構造改革を進めることに他なりません。3カ月後に迫った時間外労働の上限規制の対応も、単に時間外労働を削減する問題でなく、

新3Kの取り組みと一体となつて進めることが大切です。また「@かっこいい」については、建設業が元来

かっこいい職業であり「モノづくりのやりがい」「地域を守る誇り」などカッコ良さを改めて確認すると

も、建設業のベースとしてあるべきものとして、アットマークをつけて表現しました。行動指針が目指す構造改革によって、「人材確保」、「生産性の向上」、「働き方改革」を進めること

で、厳しい時代を乗り越えて行ければと思っています。

本年も引き続き、タイムリーなアンケート調査に基づき情報発信や提言、最新技術の研修や講習会を行うとともに、持続可能な地域建設業の実現に向けて協会活動を積極的に展開してまいります。

結びに、本年が皆さまにとって良き年となりますことを祈念いたしまして、年頭のあいさついたします。



群馬県建設事業協同組合
理事長
青柳 剛氏

変化していく建設業 取り組み支える

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

皆さまにおかれましては、日頃より当組合の事業にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス

感染症の規制が緩和され、経済活動や日常生活も

少しずつコロナ前の状態に戻ってきましたが、ウクライナ情勢や円安、物価の高騰は引き続き日本経済に大

きな影響を与えておりま

す。

建設業界においても、燃料や資材価格の高騰により工事の採算が悪化するなど、厳しい状況が続いております。

防災・減災の観点では、関東大震災から100年、阪神大震災から28年、東日本大震災から12年を迎え、改めて避難所のあり方を考えさせられました。そんな中、昨年8月には関東大震災特別企画展に、当組合で販売している段ボール製のパーティション「KANKABE」を展示したところ、斉藤鉄夫国土交通大臣にも大きな関心を示していただきました。

全国に多くの建設関連の

事業協同組合があります。当組合は他県の組合にとって先進事例として参考にされる組合になりつつあります。

前に向かって変化していく建設業の取り組みを支えるのが当組合の精神といえます。その精神を持ち続けながら、計画的な設備投資や車両入替を行い県内の道路清掃および道路パトロールに努めてまいりますので、引き続き皆さまのご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、建設業のさらなる発展と、皆さま方のご多幸とご健勝をご祈念致しまして、年頭のあいさつとさせていただきます。

「新3K@かっこいい」を推進

群馬県建設業協会会長 青柳 剛



激甚化、頻発化する自然災害に対して、地域の守り手である建設業が災害対応組織力を強化し、防災・減災対策事業を着実に進めることが重要です。国が進める国土強靱化は、3か年緊急対策、5か年

加速化対策を閣議決定し、実施してきましたが、昨年6月に国土強靱化基本法が改正され「国土強靱化実施中期計画」に内容や事業規模を位置付けて進めることになりました。国土強靱化の予算を補正予算でなく当初予算で確保されることを期待します。

今年度の行動指針は「新3K@かっこいい」です。新3Kの給与、休暇、希望に取り組む

ことは、建設業の構造改革を進めることに他なりません。

時間外労働の上限規制の対応も、新3Kと一体で進めることが大切です。「@かっこいい」は建設業が元来かっこいい職業であり「モノづくりのやりがい」「地域を守る誇り」などかっこ良さを改めて確認し、建設業のベースとしてあるべきものとして、アットマークをつけました。構造改革によって「人材確保」「生産性の向上」「働き方改革」を進め、厳しい時代を乗り越えていければと思っています。